

ひろか

だより

第394号
令和7年5月16日
発行
弘果
弘果 弘前中央青果株式会社
津軽の「うまい」がここにある

吸収のよいリン酸肥料
着色や食味向上の手助けに
アカツキ
0-12-8
収穫の期待にこたえたい。
詳しくは弘果物流まで



弘果令和6年産りんご止市の様子

令和6年産りんご止市

弘果及び津軽りんご市場において4月25日、令和6年産りんごの止市が行われました。
6年産りんごは、主力のふじを中心に、花芽不足やカラマツ（不受精）の発生で、結実量が低下し、側果対応による肥大のバラつきがありました。また、サビ、シブ果が多く、昼夜の寒暖差が小さいことから着色が悪く、下位等級品の割合が多くなりました。販売面では他県産りんごの出遅れや品質低下、競合果実を含む果実全般の減収による品薄感を背景に引き合いが強くなり、上実から下位等級品まで1年を通して堅調に取引され、その結果、平均単価、取扱金額は過去最高となりました。
両市場を合わせた6年産りんご取扱数量は、655万942箱（前年比101.2%）、1箱あたりの平均単価は6802円（同111.5%）となり、取扱金額が弘果では299億4358万円（同115.2%）、津軽りんご市場では146億1594万円（同108.6%）となりました。
※本文中の単価、金額は全て消費税込みです。

両市場ともに年産平均単価・取扱金額過去最高

午前8時より行われた止市には、買参人約200人、生産者約350人が来場しました。当日は1万224箱（前年比77.7%）が入荷し、「ふじ」の上実が高値1万5120円（同82.4%）、中値1万2960円（同100%）、安値1万800円（同100%）、小玉が高値1万2960円（同92.3%）、中値1万1880円（同100%）、安値1万800円（同100%）での取引となりました。
會田一男専務は6年産の販売について「生産者の皆様の努力により食味が良く仕上がった結果引き合いが強くなり、上実から下位等級品まで高値基調で推移しました」と締めくくり、7年産に向けて大雪で被害に遭った生産者



津軽りんご市場令和6年産りんご止市の様子

は、大変かとは思いますが早めに対処して、りんごの生産量を減らさないように頑張っていたください」と話していました。
令和6年産の取扱数量は439万428箱（同103.7%）、平均単価6820円（同111%）となりました。

午前10時より行われた止市には、買参人約70人、生産者約300人が来場しました。当日は7436箱（前年比79.8%）が入荷し、「ふじ」の上実が高値1万6200円（同88.2%）、中値1万2960円（同100%）、安値1万800円（同100%）、小玉が高値1万4040円（同100%）、中値1万1880円（同100%）、安値1万800円（同100%）での取引となりました。

生産者団体定時総会

弘果グループ関係団体（9団体）では、3月下旬から5月上旬にかけて、定時総会を行いました。

また左記1団体では、任期満了に伴う役員改選が行われました。

各団体の総会では、令和6年度の事業報告と収支決算、今年度の事業計画案、予算案がそれぞれ審議、可決され、令和7年度のスケジュールを読み上げ、満

青森県りんご生産者協議会
会長 渋谷充 ホナミ出
副会長 浜山浩文 雉子
森出荷組合（再任）、
野呂勇 上福元生産組合（再任）

100%）での取引となりました。
齋藤彰寿取締役営業部長は6年産の販売について「暑さの影響で着色不良が見受けられましたが、糖度が高く食味が良好でした。競合果実を含む果物全般が品薄基調の中、食味の良さから下位等級品を含め引き合いが強くなり、7年産に向けて「大雪の影響等の懸念事項はありますが、引き続き食味良好なりんご生産を期待したい」と話していました。

令和6年産の取扱数量は216万514箱（同96.5%）、平均単価は6765円（同112.5%）となりました。

調査した側枝1395本のうち、折れた本数は102本で、被害率は7%となりました。その内、定植6年目と4年目の8園地では4%と被害が少なく、経営モデル園が1、2年目の幼木が多いことから12%とやや被害が大きいう結果となりました。しかし、定植1、2年目の園地では、今

りんごトレサビリティ

2025年度（令和7年度）りんごトレサビリティの書類を5月中旬より発送いたします。

本年産のトレサビリティ情報をいち早くご確認いただくため、お手元に届き次第早急に開封し、同封書類のご確認をお願いいたします。

重要
最新情報チェック！
農薬一覧
令和7年度（2025年度）版
農薬の「有効成分の樹園数」
農薬の「有効成分の樹園数」
農薬の「有効成分の樹園数」
農薬の「有効成分の樹園数」

令和7年7月24日～10月31日
受付時間 受付時間 受付時間
TEL.0172-29-4184(代表)

りんご高密度植栽培園地 雪害被害少なく

春に着果させる量はまだ少ないことから、収量に影響はなく、被害は非常に限定的とみられます。

弘果総研は「今年是最深積雪時で160cmを超えましたが、雪害は丸葉栽培や慣行わい化栽培に比べ少ないです。その理由として、高密度栽培は樹上に雪が積もらない樹形であることや、側枝を引っ張る下方向へ、下方向へ引っ張られる力が緩和されること、樹列が1列に並んでいること、融雪剤等の対策を行いやすいことが挙げられます」と被害が軽微だった要因を説明しました。また「高密度栽培は実際の結果

とは違う憶測での意見も多いですが、今年の大雪により、他の栽培方法より雪に強いことが証明されたと思います。今後もこの栽培について調査を行い、栽培管理や収穫されたりんごの品質など、様々なデータを通じて、この栽培について発信していきたい」と話していました。



160cmの積雪となった高密度植栽培経営モデル園

「農」の「業」を継ぐ 期待の後継者



石岡 諒 耶さん (28)
 家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

【園地所在地】藤崎町富柳
 【作付状況】シャインマスカット・100坪、ミニトマト・10坪、アスパラガス・10坪、葉物類各種、他
 【就農年】2017年

【きっかけ】米を中心に栽培する農家に生まれ育ちました。やがて家業を継ぐことを念頭に、青森県宮城農大の畑作専攻に進み、卒業後は家業の手伝いをしていました。日々の仕事に追われる中、家業の将来を見据えて、自分でも新たな品目を栽培していきたいと思い、ミニトマトをはじめ様々な野菜を栽培しました。そして、シャインマスカットに着目し、苗を手に入れて定植してみました。今後の栽培管理等に不安がある中で、営農大時代の同級生が弘果の農産指導課におり、色々相談に乗ってもらっていました。その同級生の勧めもあり、弘果へ出荷することを決めて、栽培指導を仰ぎ、シャインマスカット生産者としても本格的に歩みだしました。

【現在】シャインマスカット生産において、弘果の栽培指導、出荷・販売面でのサポートが非常に心強く、今後の本格的な出荷に向けて栽培管理に努

めています。また、家業の稲作をはじめ、多角的な農業経営とまでは言いませんが、栽培する品目の選定を常に行い、基盤確立に向けて日々励んでいます。

【夢・展望】シャインマスカット栽培を軌道に乗せていく事は勿論、将来を見据えた規模の拡大を考えています。そして今年から、ニムラサラダ(スナックブエンドウ)の栽培に挑戦します。弘果のオリジナルブランド「つがりあん」の品目にもラインナップされているので、高品質な生産を目指し、無事に出荷できるように、今から期待が高まっています。

【座右の銘】「雪が溶けて消えるように僕の命も終わりがあってだからこそ輝ける」大好きなバンド「UVERVORID(ウーバーワールド)」の、ある歌詞の一節です。何事も終わりがあ

野菜・果実トレーサビリティ 受付について

消費者へ「安心・安全」を届けるために、皆様の加入をお願いします。

【期間】4月1日から随時受付(5月31日休業)

【場所】弘果トレサビセンター(第2卸売場内)

【時間】午前8時～午後5時

【休業日】市場休日(弘果カレンダー参照)

【費用】3000円(令和8年3月31日まで有効)

【対象品目】野菜と果実(りんご、天然の山菜を除く)

「つがりあん」で出荷する品目は必ず加入してください。

弘果オリジナルメニューも対象です。

【持参していただくもの】
 案内はがき、登録費用、出荷登録番号票

※初めてご登録される方は印鑑もご持参下さい。

詳しくは弘果総合研究開発(電話0172-29-4184)、またはそ菜部・果実部(電話0172-27-5511)まで。



シーズン成績報告会開催

弘果スキーレーシングクラブ後援会では4月22日、同クラブ所属の土屋正恵選手、横濱沙莉選手の活躍を讃える成績報告



会を弘前市のフォルトーナにおいて開催しました。成績報告会には弘果社員や後援会関係者ら124名が出席し、世界選手権への出場や、全日本スキー選手権をはじめとする各大会での優勝や上位入賞等、輝かしい戦績が紹介されました。今シーズンを振り返り、土屋選手は「出場した多くの大会で、2人で表彰台に上がれた良かったです。皆さんの期待に応えたいという一心で頑張ることができました」と話し、横濱選手は「目標としていた世界選手権への出場と、国スポでの表彰台入りを果たすことができ良かったです。皆さんの応援が力になりました」と感謝を伝えました。

来月2月には、ミラノ・コルティナオリンピックが開催されます。オリンピック出場に向けて土屋選手は「まずは出場を確定させられるように、練習を積み重ね、世界で戦える力をつけていきたいです」と意気込み、横濱選手は「課題を克服して実力を伸ばし、少しでも可能性のある限り出場の権利をつかみたい」と熱意をみせました。

産地化を目指し里芋栽培勉強会初開催

そ菜部では、生産者の高齢化や、野菜作付面積の減少を少しでも改善するため、機械化が可能な省力軽減が期待でき、温暖な気候を好む品目「里芋」に着目し、産地化を目指して取り組み

その取り組みの一つとして4月26日、里芋栽培勉強会が初めて開催され、生産者と弘果職員あわせて約40名が参加しました。勉強会では弘果職員が講師となり、令和7年度の里芋の栽培暦や使用する農薬、出荷基準などの確認を行いました。

里芋栽培に興味がある生産者で盛況な勉強会

を見ながら熱心な様子で聞いていました。また勉強会の終盤には、貸出用の農機具を実際に見ながら使い方を説明する場面もあり、参加者から多くの質問が飛び出しました。

勉強会に参加した生産者は、「里芋栽培勉強会が初開催されるということに参加しましたが、自分自身、里芋の栽培を始めてからまだ日は浅いのでとても参考になりました。これから栽培に力を入れていきたいです」と話していました。

そ菜部では、里芋の栽培者を募集しており、関係する農機具の貸し出しも行っております。詳細はそ菜部、農産指導課へお問い合わせください。

りんご大学

リフレックピコンテスト 受賞レシピ発表

「りんご大学」では、青森りんごの消費拡大を図るため「リフレックピコンテスト」を開催し、この度受賞レシピを発表いたしました。

北海道から沖縄までの23都道府県から59レシピの応募があり、洋菓子に限りず和菓子や独創的なレシピなどが寄せられ、りんごの味わいを生かしているもの、そうなのもの、可愛くようと思えるもの(手軽さ)などの基準で審査しました。

詳しいレシピはホームページに掲載しておりますので、ぜひ作ってみてくださいね!

審査員 野菜ソムリエプロ タナカトウゴさん
 審査員 生産者 会津宏樹さん

もっちり appleチョコロス 優秀賞 大友理玖様考案
 りんごのチョコようかん 優秀賞 りんご姫様考案

レンジで簡単 りんごバター!の スコーンサンド グランプリ みなづき様考案

ぜひ作ってみてね!